

橋材

これら 2 本の栗の木の橋材は 12 世紀のもので、内堀にかかる橋のための支え構造の一部を成していると考えられています。橋は幅約 9 から 12 メートル、深さ約 2.5 メートルの内宮堀にかかっていました。この橋材は、研究者が 12 世紀平泉の行政の中心地だったと考える柳之御所遺跡で発掘されました。12 世紀における橋建設の希少な例であり当時の建築技術について私たちに教えてくれます。